

「新城小学校の鎌 hands 踊り伝承活動の取組」

1 学校名

垂水市立新城小学校

2 学年・人数

1年生から6年生（計21人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

- ①令和3年9月3日～24日 体育・創意・総合的の学習の時間
(本校体育館・校庭)
- ②令和4年1月12日～2月2日 体育・創意・総合的の学習の時間
(本校体育館)

(2) 発表の日時・場所

- ①令和3年9月26日（日） 新城小・校区合同運動会（本校校庭）
- ②令和4年2月12日（土） 創立150周年記念式典（本校体育館）
(令和3年度年度は、コロナ感染状況もあり、六月灯と校区文化祭は開催されなかった。)

4 伝承に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

「鎌 hands 踊り（かまんでおどり）」

(2) 由来

安永8年、桜島が大爆発した。その被害は甚大で、農作物は降灰のため収穫が皆無となり、農民全員が生活苦に悩まされた。当時、新城領主であった末川久備公は、貯蔵米を放出して領民に米を施した。その年の年貢は取止められ、更に農民の士気を鼓舞するため民芸大会が開催された。民芸大会は、各集落ごとに民芸団を組織して行われたが、そのとき新城大浜集落が踊ったのが「鎌 hands 踊り」であった。村人全員が参加して盛大に開かれ、以来、村の行事として、祝いごとや祭りの折に氏神に奉納されてきた。

(3) 構成等

揃いの衣裳に鉢巻、色とりどりのタスキに身を固め、りりしい姿で踊る。カマ、ナタ（ナギナタ）4人1組で前と後ろに位置し、唄声に合わせて、威勢のいい掛け声とともに、カマとナタとをつばぜり合わせながら舞う。つばぜり合いの際、櫂の棒が「カチン」と響く様が勇壮である。

5 保存会や地域との連携の具体

「鎌 hands 踊り」は、新城公民館に所属する「ふるさと先生」が指導を担う。地域の住民が集う六月灯、運動会、校区文化祭で踊られ、季節の節目を彩り、地域が一つになる大切な伝承芸能であるという意識が高い。地域社会の一員として児童、保護者、教職員はこの行事に愛着をもって参画する。「ふるさと先生」は、幅広い人々が所属し、先輩から後輩へと伝承する形式をとっている。

6 保存会や地域との連携の具体

先輩から後輩へと伝承する鎌 hands 踊りでは、地域の文化財少年団会員等から子供たちへ賞賛や励まし、アドバイスをを行う。本番当日、保護者は、踊り手である子供たちを激励しながら伝統を託すように着物の着付けを手伝っている。本年度は、保護者が着付けの説明書も作成した。

児童数が減少しているため、入学したばかりの小学校1年生も鎌 hands 踊りの大切な担い手である。「ふるさと先生」はすべての子供たちに愛情をもって教えている。保存会は担い手も増やすために、ビデオを見て学習会も行っている。この鎌 hands 踊りを通して地区を一つにするために、地域や保護者が出来ることを考え、伝統を守っている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【練習風景】



【運動会で披露】



【かごしま民俗芸能活動
奨励賞受賞】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【6年生児童】 ビデオを見たり、地域の方や先生に教えていただいたりしたことを下級生にも教えながら練習を頑張った。運動会本番では上手に踊れて嬉しかった。

【教職員】 地域の方が、教えたり、草履・カマ・ナタを新しく揃えたりしてくださり、子供たちへの愛情と伝統を絶やさないという強い思いを感じた。

【保存会から】 伝統の灯が消えないように、地区を挙げて指導者を増やしていきたい。

【保護者】 その学年らしい可愛さやたくましさを感じることができた。児童数は減っているが続いてほしい。